

みどりの杜俳句会

蔓に蔓絡むあけびや初めて見  
 十三夜お盆に取りたて野菜盛る  
 秋草刈植込みに見え隠れして  
 秋桜川のほとりに揺れどうし  
 秋の昼前山道に人気なし  
 くね垣にからまりあけび生り下がる  
 青ひさご重さ比べや持つてみる  
 秋彼岸予期せぬ昼のお赤飯  
 コスモスや山の日の射す道の辺に  
 植え込みに伸び曼殊沙華茎太し  
 通ひ路の土手彼岸花揃ひ立つ  
 前川に掘りたて大根洗ふかな  
 青しその花穂出揃ひ庭畑  
 コスモスに白蝶の表て羽根広ぐ  
 土うすくかけて春菊種時けり  
 くもり空草に触れ飛ぶ赤蜻蛉  
 線路沿ひ低く並びて曼殊沙華  
 藪蘭の花こぼれつつ青実付く  
 秋晴や父と子カヌー漕ぎ揃ふ  
 真つ直ぐな紫苑へ寄れば山近し

佐山けさ子  
 飯野はつ志  
 本間 弘子  
 西 つる  
 鈴木 啓子  
 梅沢きくえ  
 田村 好子  
 竹内 礼子  
 今村知鶴子  
 吉田 愛子  
 高橋 ツ子  
 落合 七郎  
 関口 侑子  
 野口利江子  
 小宮 勉  
 鯨井 和枝  
 岡部富美子  
 土屋 厚子  
 初雁 功子  
 山田 美子

人権シリーズ

【「身近なところから」】

409

今日、人権課題は法務省の啓発強調事項として、女性や子ども、高齢者の人権保護など、実に17の項目をあげている。

人権の保護、偏見や差別の解消、人権侵害の根絶が主眼だが、対応する法整備や行政施策が、追いつかない感がある。ネット社会や世の中の変化に伴い、新たに対応すべき課題として認識されてきたことも多い。

多くの人権課題への取組は容易なことではない。まずどんな課題があるか内容を知り、身近なところから認識や理解を進め、できることから行動につなげていくことが大切だと思う。

それを考える一例として、8月の広島での子ども代表の「平和の誓い」がある。その誓いの趣旨からは少し離れるが、身近なところにある「平和」を子ども視点で教えてくれている。一部を引用させていただく。

- ・争いや戦争がないこと・差別せず違いを認め合うこと
- ・悪口を言ったりけんかをせずみんなが笑顔になれること
- ・自分の思いを伝える前に相手の気持ちを考えること
- ・友達の良いところを見つけること・・・など。

子どもの時から人権への意識を身につけていくことの大切さを、それが平和の礎につながることを気づかせてくれている。差別や偏見、人権侵害を絶対にしないという各自の思いこそ核心である。どこにあっても、人間の尊厳や生命が尊重され、相手を思いやる心を大切に

東秩父村教育委員会委員 江原 誠一

アートの世界

尾瀬ヶ原の水芭蕉にて。

5月頃に咲く尾瀬ヶ原の小さな水芭蕉を基に、実際よりも花や葉を大きくきれいにするなど自分の中で理想と想像を膨らませて作成しました。版画の作品は写真とは違い、そのものがなくとも自分が好きなようにイメージしたものを作品で表現することが出来ます。それが版画の興味深いところだと思います。

「水面」

作者 倉林 均さん (皆谷)

